

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500058		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム アベーテ		
所在地	栃木県那須郡那珂川町馬頭2050-1		
自己評価作成日	平成30年9月19日	評価結果市町村受理日	平成30年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/09/inndex.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成30年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり」「一緒に」「楽しながら」一人一人のその人らしさを大切にした生活支援に努めます、という理念の下で取り組んでおります。家庭的な雰囲気で生活ができるように、入居者様に寄り添い一緒に家事やレクリエーション、外出などを行っております。家族の方たちとの交流も取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり」「いつしょに」「たのしみながら」の理念を基に、職員はこの理念を意識しながら日々の実践につなげており、利用者はリビングのソファーにみんなで集まってくつろいでいたり、書道や建物内の廊下の散歩をしたりするなど、一人ひとりができることを楽しみながら生活をしている。認定こども園に出かけて子どもたちとふれ合い、事業所の秋まつりには子どもたちが太鼓を披露をしたり、町の職員がそばを打てくれる等、地域との交流も盛んである。状態が重度化し終末期に入って医療的措置が必要となった場合には、基本的には対応できないとしているが、協力医院の医師が事業所に往診等に来ており、この医師等の協力により、家族が希望した事業所での看取りを行った経験があり、今後も取り組むことが期待できる。管理職と職員は常に話しやすい環境になり、職員の意欲も感じられ、職員提案が運営に反映されている。勤務の面でも子育てしながらも働きやすい職場環境といえる。今後も、利用者や家族の意向を尊重し、一人ひとりに寄り添ったケアの実践に取り組んでいくものと思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のよう <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会や朝夕の申し送りの時に、理念が実践されているか確認している。	「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」の法人理念があり、職員はこの理念を意識しながら日々の実践につなげている。施設長や管理者は、毎月の定例会や毎日の引き継ぎの時に職員に対し理念の確認をしており、事業所内に理念が掲示されている。利用者は、リビングのソファーにみんなで集まってくつろいでいたり、書道や建物内の廊下の散歩をしたりするなど、一人ひとりができる樂しみながら生活をしている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員と一緒に地元のスーパーに買い物に行ったり、地元の自然観察に出かけたり、施設に紙芝居・ハーモニカボランティアを招いたり、施設主催のお祭りに地域住民を招いたり、家族と出掛けて交流をしている。	認定こども園に出かけ、踊りを見せてもらったり、手作りの作品を一人ひとりもらうなど、地域の子どもたちとの交流ができた。事業所の今年の秋祭りには、子どもたちの太鼓や役場職員が新そばを打ってふるまってくれ、近所の人も来ている。地域で開催しているひなめぐりや菊花展などにも出かけたり、事業所に紙芝居やハーモニカなどがボランティアとして定期的に来るなど、地域との交流ができている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まずは入居者の家族に認知症の理解や支援の方法を学んで頂く機会を作りたいと考えている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町担当職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町有識者・家族・入居者が参加している。参加者から地域の情報を得たり、生活に対する感想を聞いたりして、生活支援の計画に生かしている。	運営推進会議は、年6回開催されており、町の担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、利用者等がメンバーとなっている。元民生委員も有識者として長年参加していたり、利用者も参加して挨拶するなどが特色である。会議では、地域のイベントの紹介があつたり、介護に関しての質問が出たりするなどの意見交換が行われている。今年から身体拘束等の適正化に係る委員会も兼ねるようになった。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に町担当者への、事業所の実績や取組などの報告は、運営推進会議で行っている。	町の担当職員や地域包括支援センターとは常に連絡を取り合っており、事業所の報告や相談ごとなど常日頃から協力関係を築いている。町から要請を受け、要援護者の受け入れ施設にもなっている。事業所は地域の高齢者の認知症等に関して包括支援センターの職員からの相談を受けることもある。	

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関扉と玄関に続く通路の扉は日中は鍵をかけないが、各居室のサッシは日中でもなるべく鍵をかけるようにしている。入居者への声掛けで入居者の行動を抑制しすぎないように配慮している。拘束禁止についてのマニュアルは作成済みで勉強会で職員に周知している。	身体拘束禁止に関するマニュアルがあり、年に一回は事業所で勉強会を行っている。夜間にベッドから抜け出して転倒などの危険がある人にはベッド柵で囲わずにセンサーマットを設置して対応したり、車椅子からずり落ちる人には車椅子に固定せずにクッションを替えて対処するなど、身体拘束のない介助に取り組んでいる。言葉づかいに関しては接遇研修を行い、利用者への言葉かけには気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	町の研修や勉強会で学んだことを実践に結び付けて、虐待が起こらないように注意して支援をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員に周知できるように勉強会を持つ機会を作るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容は管理者が家族・本人に疑問の有無を確認しながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からはいつでも要望を受け入れるように確認している。家族からは面会時に要望を確認している。	利用者から意見や要望が出ることは少ないが、寿司や刺身が食べたいなど食べ物の要望が出ることがあり、外食に行ったり、おかげで刺身を付けたりして希望に応えている。いる。家族からあまり意見や要望は出ないが、来所したときには利用者の状況を伝えて意見を聞き、サービスに反映するよう努めている。家族や代理人には、毎月の利用料請求の際に、利用者の写真と詳細な文面で所内での生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの運営に関する提案は、主に定例会で受け付けている。	毎月開催している定例会で、職員からの要望や意見などを聞くようしている。勤務の関係で参加できない職員は、事前に文書などで提出するようにしており、会議結果についても回覧で周知している。職員からの提案で、浴室の動線に沿って手摺りを追加したり、日よけのためによしを付けたり、職員配置が手薄にならないよう業務手順を替えたりしている。	

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は職員個々の要望を確認して、できる限り職場環境・条件が整備されるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に地域ネットワーク会議・ケアマネ連絡協議会の中での勉強会や、事業所内研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同研修などに参加をして交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と繰り返して話すことでなじみの関係を作り、本人の意向が聴けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族とも繰り返して話すことでなじみの関係を作り、家族の意向が聴けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を良く確認したうえで、必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の能力に応じて洗濯物たたみや洗い物等をしてもらうようにしている。		

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会に来て頂いたり、自宅への外出や外泊などに連れて行ってもらい、関係の継続をしてもらうように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月には家族にお願いをして、自宅に外出・外泊してもらったり、なじみの面会者が来たときにはゆっくり落ち着いて話せるように配慮している。	訪ねて来るのは主に家族や親戚であり、友人や知人の来訪者は少ない。家族の中には、週末に家に連れて帰ったり、外に連れ出して食事を共にしたりする人もいる。正月には家に帰るよう家族に促しており、自宅に帰る利用者が多い。ほとんどは夜にはグループホームに戻ってくるが、自宅に泊まってくる利用者もいる。菊花展など地域のイベントに行くときには利用者の自宅近くを通るようにするなど、馴染みの人や場との関係性が途切れないと支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者達は近くに座って談笑したり食事をしてもらったりして、意思疎通が難しい入居者には孤立しないように職員が近くに座って触れ合ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人・家族からの相談があれば応じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から意見を述べる人は少ないので職員が日常の関わりの中で声をかけてできるだけ本人の意向をくみ取るように努めている。確認が難しい時は家族に意向を確認したりして本人本位に検討している。	自分の思いを伝えられる利用者は少ないが、家族の話や日頃の関わりの中で聞きとることができた情報を元に思いや意向を把握するようにしている。併設の小規模多機能施設から移つてくる利用者も多く、利用開始前から思いや意向をくみ取りやすい人もいる。本が好きだった人に図書館から紙芝居を借りて見せたり、音楽好きだった人をコンサートに誘つたりすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族・担当ケアマネから生活歴やサービス利用経過を確認している。		

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活の様子を職員が観察して記録することで、職員が情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずは本人・家族・職員と協力してアセスメントを行い課題を把握したうえで、目標とサービス内容を考える。次にこの介護計画原案をサービス担当者会議で検討して介護計画を作る。	家族からは、来所時などに話し合いを行い意向を聞きとっている。利用者の日頃の暮らしや夜間帯の状況などについて職員から情報を聞き取り、担当者会議での話し合いや家族などからの意向などを基に、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画作成担当者は、1人でトイレに行くことができるなどADLが低下しないように、認知症であっても集団生活を送ることができ、自立した生活もできるよう介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容などは個別記録に記入して、職員はその記録を隨時確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	紙芝居・ハーモニカ・民謡・ヘーカットなどのボランティアを招いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々職員が付き添って、自然観察に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的には家族が対応するが、家族が対応できない時・緊急時は管理者やケアマネ・併設の看護職員が対応する。	かかりつけ医に関しては、本人・家族の意向を尊重しているが、内科については協力医院が往診等で事業所に来てくれることから、入居後に家族の希望で全員がこの医師に変更している。受診の際の通院介助は、基本的には家族が対応することとしているが、急病の時や認知症専門病院等への受診は併設の小規模多機能型居宅介護事業所の看護師等が付き添っている。受診の結果は家族に報告され、薬の変更等があつた時は申し送りノートを利用して職員は情報の共有をしている。	

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入居者の変化を速やかに看護職員に報告をしたり、支持を受けたりしている。家族が病院受診に付き添えない時は看護職またはケアマネが付き添う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に対して必要な情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人や家族には重度化した場合は他の施設や病院に移ってもらうことがあると説明している。特に高齢の場合は家族から延命の希望を確認して終末期の対応を職員間で話し合って慌てずに対応するよう準備をしている。	入居時に、医療的措置が必要となり事業所では対応できなくなった場合には、原則として他の施設や病院に移ってもらうことがあると家族には説明している。家族の希望により、往診等に来ている医師、併設施設の看護職員、家族等の協力で、事業所での看取りを最近では2年続けて2回経験している。最後までアベーテで過ごさせたいと願っている家族もおり、延命処置をしない覚悟を家族に確認できれば事業所で看取りたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	殆どの職員が消防職員による普通救急救命講習を受講して、その後も緊急時の対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間それぞれの火災を想定した訓練を年に1回ずつ行っている。その時は消防職員が立ち会い、近隣住民にも協力してもらう。	火災避難訓練を昼間想定と夜間想定で年2回実施している。町の職員による火災以外の防災避難対策講話を聞いたことから、災害をより身近に感じると共に、避難所まで車に分乗して利用者を安全に避難させることを課題として訓練をしたいと考えている。災害時用に水、レトルトごはん、卓上コンロ、ストーブ等を備蓄している。緊急時に救急隊に渡す利用者の情報提供票も入れた持ち出し袋を用意している。	火災に関してはこれまで毎年避難訓練を実施しているが、地震や水害等の災害対策についても避難方法等の検討を進めるこを望む。

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室の扉はきちんと閉めるように徹底している。入居者の排泄の失敗や記憶の喪失に対して、本人が気にしないようにさりげなく対応している。	トイレ誘導の際にはさりげない言葉かけをおこない、排泄の失敗などもプライドを傷つけないよう配慮する等、排泄や入浴の時に利用者に恥ずかしい思いをさせないように注意を払い対応している。接遇の研修を年3回行い、職員への教育を徹底している。職員も利用者一人ひとりの性格や好み、環境や家族との関係等プライバシーに配慮して接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断できる入居者が少ないので、職員から声掛けしてできるだけ希望通りになるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で何かしたいという希望にはできるだけこたえられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に希望を聴きながら、職員がその日の天気や気温等を見て選んであげている。外出時はおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から調理済みの食事を提供しているが、週に2回は職員で献立を決めたり、入居者に聞いたりして手作り食にしている。食後は片付けや食器洗いなどは、入居者の体調を見て協力してもらっている。	副食は外注で調理済みのものが届くが、それ以外は職員が作っている。今年から週に2回手作りメニューの日を設け、職員が交代で野菜たっぷりの食事を作っている。利用者のリクエストで刺身を提供することもあり喜ばれている。季節の野菜や果物を手作りおやつにしたり食後のデザートに出し、季節感も大切にしている。行事外出で外食を楽しんだり、利用者も参加して団子作りをしたり、食生活の充実に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の量は摂取時に記録して不足しないように注意している。月に1回体重測定して体重が増えないようにコントロールしている。水分は入浴後・運動後・希望時に提供している。		

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人一人に口腔ケアを促して、状況に応じて義歯を洗ったりして清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを確認して適時にトイレの声掛け・誘導を行っている。ズボンの上げ下げやお尻ふきはなるべく自分で行うようにしている。又トイレの場所が分かるように黄色の立体的な表示をトイレ入り口に取り付けてある。	利用者は昼間はリハビリパンツを着用しているが、夜間はオムツ使用の人もいる。排泄チェック表や利用者の表情動作の観察でトイレに誘導したり、自分でトイレに行ける利用者にも職員が付き添い、パッドの交換等の支援をしている。昼間は全員がトイレで排泄しており、この状態を少しでも長く維持したいと、足腰を鍛えるため歩行訓練に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携をして、食事は野菜を多めに提供し、水分はカルピスや牛乳などをこまめに提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に午前中の時間に3名程度の入居者が入浴している。毎日は入浴できないが、ゆっくり気分よく入浴して頂けるように心がけている。	利用者は週2回入浴している。脱衣所も浴室も床暖房になっており、寒い季節も温かく入浴できる。車椅子の利用者には清拭や足湯をしながらのシャワー浴で対応しているが、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴でゆっくり浴槽につかって欲しいと考えている。菖蒲や柚を入れた季節の湯も楽しんもらっている。	車椅子の利用者に浴槽につかってもらう入浴支援をしたいと考えている。機械浴のある小規模多機能型居宅介護事業所の入浴時間との兼ね合いや職員の配置の問題も関係してくるので課題は多いと思われるが、ぜひ実現させてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人がソファーやベッドでゆっくりと過ごしている。疲れたり休みたい時には自室で休んだりして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬については誤薬のないようにカウンターに名前をつけて、その都度名前と薬が一致するように確認して服薬をしてもらっている。薬は必ず飲みこむまで確認している。症状に変化があった時には記録して看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛けしてお掃除や食事の後片付けを自分の仕事としてやって頂けるように支援している。お習字や塗り絵などにも参加してもらっている。		

グループホーム アベーテ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに入居者全員で自然観察や外食に出かけている。また、家族と一緒に外食にも出かけている。	紫陽花や桜等の花見や紅葉狩りなど、季節の行事外出に全員で車に分乗して出掛け、帰りに外食をすることが定着している。その他に職員の買い物に同行してもらったり、音楽好きの利用者をコンサートに誘ったり、運営推進会議の情報で事業所の近くに白藤や菊花を見に行ったりひなめぐりをしたり、地元の祭りに参加したりと、外出の機会を作る努力をしている。さらに季節を感じられる散歩のような日常的な外出も増やしたいと考えている。	毎日の天候や利用者の体調に合わせて、短時間でも散歩や外気浴をして季節を楽しめる機会を日常的に作ることを望む。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員小遣いは事務所に預けている。月1回のヤクルト販売が来るとときには、好きなものを小遣いで買っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれ希望があれば、電話をかけて頂いたりしている。家族から手紙が届く方もいる。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは十分な日差しが入り職員と入居者が協力して作ったカレンダーや入居者の書道作品が飾られ、ソファーでゆったりと過ごすことができる。食堂も明るく中庭の木々や青空、燕の成長を眺めたりしている。廊下の壁には最近の行事の写真が貼られている。	高窓と中庭に面した大きな窓で、食堂や中庭を囲むように配された廊下は明るく、食堂には季節らしい飾り付けがされており心地よい空間になっている。利用者がほとんどの時間を過ごす居間には椅子や大きなソファーが置かれ、利用者がテレビを見たり、歌を歌ったり、体操をしたり、歓談をしている。壁には利用者の習字の作品や行事の時の写真が飾られている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席やリビングの座席は気の合う入居者同士で座っている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には職員手作りの人形の目印がつけられ部屋が区別しやすくなっている。ベッドやタンスは入居者のなじみの物が使いやすい位置に置かれている。壁にはカレンダーや塗り絵などの自分の作品が貼られている。	居室には花の名前が付けられているが、自室が分かりにくい利用者のために、職員手作りの人形の目印やドアの目線の位置に大きな字で名前が貼ってある。掃除がいきとどき整頓された居室には、利用者のベッドや箪笥などなじみの家具を持ち込み、壁などに作品や家族の写真が飾っている。	

グループホーム アベーテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの入り口に目印をつけて分かれやすくしてある。廊下・トイレ・浴室などには手すりがつけられ、台所カウンターの角などにはクッションを付けてけがをしないようしている。		